

2024年度 町田市立木曽境川小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和6年3月31日

<p>学校教育目標 「未来に向かって 学ぼうとする子ども」心と体をきたえよう ・よく考え、伝えよう ・自分も人も大切にしよう</p>	<p>学校経営の重点 「地域と連携した学習活動・ICT機器を効果的に取り入れた学習活動を進め、主体的・協動的に学ぶ児童の育成、学力向上を図る。」</p>
<p>重点目標の成果と課題 「地域と連携した学習活動」については、概ね肯定的な評価をえることができた。来期以降も継続して「地域とともにある学校作り」を推進していく。 「ICT機器の効果的な学習活動の推進」については、ICTを積極的に活用するという点においては、成果指標からもわかる通り成果は徐々に表れているが、取組指標(教員の自己評価・ICT機器の効果的な活用)において課題が残った。今後は「協動的な学び」「個別最適な学び」におけるICT活用」の推進をしていく。</p>	

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	地域の環境及び人材を生かした体験的活動を企画し、実施する。	ゲストティーチャーや地域ボランティアを積極的に活用する。	4 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の90%以上を実施 3 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の80%以上を実施 2 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の70%以上を実施	3.4	A	A 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」②「地域連携教育活動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」③「地域連携教育活動」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」④「地域連携教育活動」肯定的評価 55%未満	86	A	地域学校協働活動については肯定的評価86ポイント。年間約40事例の活動が保護者・地域に評価されている。	来年度以降もVとDとの連携を継続し、「地域と結びつ学校づくり」を目指していく。	・様々な場面でゲストティーチャーを取り入れることができている。 ・保護者や地域との意見交換や情報交換を丁寧に行うことができている。 ・Vと地域の方々の連携が良い。	A
			保護者と教職員の会、学校運営協議会等を通じて、本校の教育活動を周知し、意見交換を行う。	4 必要情報の90%以上を周知・意見交換 3 必要情報の80%以上を周知・意見交換 2 必要情報の70%以上を周知・意見交換	4	A	A 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」③「地域との一体化」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」④「地域との一体化」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」⑤「地域との一体化」肯定的評価 55%未満	87	A	肯定的評価87%。地域協働本部設置、地域学習を取り入れた学習を取り入れた教育活動を展開することができている。	授業改善を重ね、主体的、協動的学習をさらにすすめる。地域学習の充実、地域との連携を深める。		
			学校だより・学年だより、ホームページの更新で保護者の安心できる情報を発信する。	4 週4回以上の更新 3 週3回以上の更新 2 週2回以上の更新 1 週1回以上の更新	4	A	A 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」④「情報発信」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」⑤「情報発信」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」⑥「情報発信」肯定的評価 55%未満	89	A	教育活動の公開、肯定的評価89%。子供たちの活動の様子を中心にHPは毎日更新。学校だよりの内容、構成等工夫した。	HPは閲覧も伸びているがさらに周知が必要。個人情報管理に気を付けながら、今後も積極的、タイムリーな情報発信を続ける。		
積極的な情報発信と公開を通して、教育活動への理解を求める。	保護者の気持ちに寄り添い、良好な人間関係のもとに、教育活動を積極的に公開する(授業公開・個人面談・保護者会)。	4 90%以上のクラスで意識して公開に努めた 3 80%以上のクラスで意識して公開に努めた 2 70%以上のクラスで意識して公開に努めた	4	A	A 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」⑤「教育活動公開」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」⑥「教育活動公開」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」⑦「教育活動公開」肯定的評価 55%未満	98	A	保護者への早期の穏やかな連絡、組織的な対応を心掛けた。児童理解の共有、家庭との連携に努めた。個人面談・保護者会の効果が表れている。	児童理解に関わる情報の丁寧な引継ぎを行う。保護者会1回増やす。各家庭との連携とともに、問題意識を共有し子供たちを地域の皆で見守り育てる。				
		1 公開に努めたクラスが70%未満だった。	4 90%以上の授業で意識して実施 3 80%以上の授業で意識して実施 2 70%以上の授業で意識して実施	2.7	C	4 児童の90%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート) 3 児童の80%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート) 2 児童の70%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート) 1 児童の60%未満が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート)	81	A	クロムブックの活用はすすむ。教員、児童とも操作技能も高まる。学習のねらいを踏まえたより効果的な活用をし授業改善を重ねる。	校内研究、研修会等で、「価値ある対話の共有」を核とした授業改善を推進し、クロムブックのより有効な活用方法を考える。	・基礎学力の定着に向けての取組は今後も継続して行ってほしい。 ・自分で考え、行動することができている。 ・教員からのインプットだけでなく、アウトプットも大事にしていきたい。		
		1 70%未満の授業で意識して実施	4 90%以上の授業で意識して実施 3 80%以上の授業で意識して実施 2 70%以上の授業で意識して実施	3.2	B	4 児童の90%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート) 3 児童の80%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート) 2 児童の70%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート) 1 児童の60%未満が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート)	高90 低91	A	「協動的な学び」については教職員の意識が高まっている。今後は協働学習の深化につながるよう組織的に授業改善をすすめる。	若手教員の増加が進む中、より細やかな授業観察や個別の指導も必要。授業モデルとなる中堅教員授業を参観させる機会を増やしていく。			
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確かな習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	各教科のねらいを踏まえ、一人1台端末を活用して授業を展開する。	4 90%以上の授業で意識して実施 3 80%以上の授業で意識して実施 2 70%以上の授業で意識して実施 1 70%未満の授業で意識して実施	2.7	C	4 児童の90%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート) 3 児童の80%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート) 2 児童の70%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート) 1 児童の60%未満が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート)	81	A	クロムブックの活用はすすむ。教員、児童とも操作技能も高まる。学習のねらいを踏まえたより効果的な活用をし授業改善を重ねる。	校内研究、研修会等で、「価値ある対話の共有」を核とした授業改善を推進し、クロムブックのより有効な活用方法を考える。	・基礎学力の定着に向けての取組は今後も継続して行ってほしい。 ・自分で考え、行動することができている。 ・教員からのインプットだけでなく、アウトプットも大事にしていきたい。	A	
		自分の考えを多様な方法で表現させ、協働学習(アクティブ・ラーニング)を導入する。	4 90%以上の授業で意識して実施 3 80%以上の授業で意識して実施 2 70%以上の授業で意識して実施 1 70%未満の授業で意識して実施	3.2	B	4 児童の90%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート) 3 児童の80%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート) 2 児童の70%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート) 1 児童の60%未満が自分の考えを表現し、学び合いで発言(児童アンケート)	高90 低91	A	「協動的な学び」については教職員の意識が高まっている。今後は協働学習の深化につながるよう組織的に授業改善をすすめる。	若手教員の増加が進む中、より細やかな授業観察や個別の指導も必要。授業モデルとなる中堅教員授業を参観させる機会を増やしていく。			
		学習への興味・関心を高め、主体的に「学び続ける」子どもを育てる。	4 90%以上の単元で実施 3 80%以上の単元で実施 2 70%以上の単元で実施 1 70%未満の単元で実施	3.3	B	A 学校評価アンケート「イ」①「基礎学力」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」②「基礎学力」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」③「基礎学力」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」④「基礎学力」肯定的評価 55%未満	90	A	授業中の個別対応、モジュールの活用により、知識・技能の定着を図った。	知識・技能の定着に向け、今後も、サポートルーム教員、支援員等も含め、さらに組織的、計画的に取組を充実させる。			
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすること意識・意欲・態度を育てる。	特別の教科道徳の授業において「自分を振り返る」時間を重視する。	1 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施	3.7	A	4 児童の90%以上が振り返り、実践 3 児童の80%以上が振り返り、実践 2 児童の70%以上が振り返り、実践 1 児童の60%未満が振り返り、実践	高85 低84	A	児童アンケート「道徳授業で考え振り返りをしている」という評価は高い。全学級で毎時間振り返りを実施。さらに授業改善をすすめる。	授業構成は定着しているが、「考える道徳」「議論する道徳」の時間となるよう指導、研修を重ねる。	・いじめ問題については方針にそって対応していると感じる。 ・地域での「あいさつ」が少しずつ増えている。 ・学校・地域との連携はできている。	A	
		いじめの見逃しをゼロにする。	4 すべてのいじめに対して指導実施 3 90%以上のいじめに対して指導実施 2 80%以上のいじめに対して指導実施 1 80%未満のいじめに対して指導実施	3.6	A	4 児童アンケート満足率90%以上 3 児童アンケート満足率80%以上 2 児童アンケート満足率70%以上 1 児童アンケート満足率60%未満	高89 低90	A	日常の情報共有、研修、定例会いじめチームでの組織的な対応に努めた。加害・被害者への早期の保護者連絡も確実に進めた。未然防止、早期発見についてはさらに取組を強化する必要がある。	いじめに関する授業、校内研修の充実を図る。教員が一人で抱え込まないよう、日頃から組織的な対応を一層推進することにも、教員の人間感覚をより高め、いじめの基本方針の理解をすすめる。			
		社会の一員として生きていくための力・態度を育成する。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.7	A	4 90%以上の児童に定着(児童アンケート) 3 80%以上の児童に定着(児童アンケート) 2 70%以上の児童に定着(児童アンケート) 1 70%未満の児童に定着(児童アンケート)	高80 低88	A	あいさつは自然に気持ちよくできる児童がさらに増えるよう指導を重ねる。時間を守る行動は身につけている。	教員と児童の穏やかで温かい関係を土台に、言語環境を整え、互いを認め大切にしよう態度を育成する。			
健全な体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	交通安全防止や不審者対応の安全意識、ネットマナーなどの育成	4 安全指導の授業で月に1回以上指導実施 3 安全指導の授業で学期に2回以上指導実施 2 安全指導の授業で学期に1回以上指導実施 1 安全指導の授業で年に2回以上実施	3.6	A	A 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 55%未満	88	A	交通安全については毎月の安全指導の効果が表れてきている。ネットマナー・ネットモラル教育については、課題が残る。	ネットモラルについては、学校評価の保護者の声にも意見が多く、家庭と連携した「ネットマナー教育」を今後進めていく。	・しほも活動に子ども達が積極的に参加している。 ・楽しいことを行うことで、体も心も動いていけると思います。	A	
		運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	4 90%以上の授業で意識して実施 3 80%以上の授業で意識して実施 2 70%以上の授業で意識して実施 1 70%未満の授業で意識して実施	3	B	4 90%以上の児童が課題項目で体力が向上 3 80%以上の児童が課題項目で体力が向上 2 70%以上の児童が課題項目で体力が向上 1 60%未満の児童が課題項目で体力が向上	80	A	運動に頼む意欲や体力は2極化傾向にある。授業改善のもと、日常化を図る必要がある。	研修を通して体育の授業方向性を固めるとともに、運動に頼む環境づくりをする。体育集会や1校1取組の実施内容、方法をさらに発展させる。			
		家庭と連携した健康教育と食育の推進をする	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3	B	4 保護者アンケート「エ」①② 満足率80%以上 3 保護者アンケート「エ」①② 満足率70%以上 2 保護者アンケート「エ」①② 満足率60%以上 1 保護者アンケート「エ」①② 満足率50%未満	89	A	給食試食会には60名以上の保護者が参加した。地場野菜を作っている農家の方をゲストティーチャーに招いたり畑を見学したり、学習としての取組も周知した。	食に関する取組の周知を継続する。学校保健委員会実施方法を工夫し、児童の健康について保護者、地域とともに考える機会を設ける。			
その他	校内の安全な生活環境を整え、自他を守る安全教育の実施と危機管理体制を確立する	「木曽境川小のきまり」を守って生活する	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.5	A	4 保護者アンケート「ウ」② 満足率90%以上 3 保護者アンケート「ウ」② 満足率80%以上 2 保護者アンケート「ウ」② 満足率70%以上 1 保護者アンケート「ウ」② 満足率70%未満	92	A	学校のきまりは概ね守られている。安全で楽しい学校生活を主体的につくる児童の育成をめざし、自分たちのきまりやルールを考えさせていく。	安全指導体制、チェック機能については随時見直しをする。生活指導と特別活動を連携させ学校のルールの見直しや意味を確認し、児童を育成する。			
		危機管理体制確立のための校内整備や校内美化につとめる。	4 安全点検・校内整備を意図的に実施(90%以上) 3 安全点検・校内整備を意図的に実施(80%以上) 2 安全点検・校内整備を意図的に実施(70%以上) 1 安全点検・校内整備を意図的に実施(70%未満)	3.5	A	A 学校評価アンケート「カ」① 肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「カ」① 肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「カ」① 肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「カ」① 肯定的評価 55%未満	84	A	学年や主幹、管理職への報告や連絡、情報共有を徹底した。未然防止、児童管理では全校体制で取り組んだ。	重要度の認識にはまだ多少の差がある。組織的な危機対応機能についてはさらに強化する。			